

# 想像の絵を広げる短歌

小泉とし夫さん、照井顕さん 15日まで 喫茶ママ



展示作品の一つ。どこか温かく、ユーモアのある短歌に癒やされる



「まさにいまのことと思える作品もある」と見詰める照井さん

小泉とし夫さん(95) 盛岡市開運橋通の詩(短歌)を照井顕さん(75) 同が経木(きよつき)の短冊にしたためた作品26点が、喫茶ママ(盛岡市本町通1の8の10)で展示されている。遊び心のある作品がある中に、予言めいた不思議な力を感じさせる作品も。普段は絵の展示が多い同店で、訪れた人たちは想像の中で自由に場面を描く時間を楽しんでいる。15日まで。

小泉さんと照井さんの同店での作品展は4回目。今回の準備期間は小泉さんの入院中だったが、照井さんが小泉さんの90歳を超えてからの作品の中から選んだ短歌を清書。小泉さんは無事退院し、9

日午後2時から同店で朗読ライブを予定している。

「とりだしたティッシュくわえてとんでゆくひらひら風さんおはなかねえどどこかユーモアがあったかわいらしい短歌。

照井さんの字がその勢で朗読ライブを予定している。

経木に書くアイデアは、かつてジャスピアニストの穂吉敏子さんの語録を展示した経験から。照井さんは「木だから少しずつ色が変化するし、よじれる。

生き物といえは生き物。木目も年輪のような模様があって面白い」と笑う。

新型コロナウイルス感染拡大前に詠まれ、現在の世の中を詠んで

「書く人の気持ちはあるが、読む人にはそれとはまた違つ感じが

いるかのような歌も、いくつかある。「あれのち酒もビールも珈琲も忘れた味のまじないをとけ」など。照井さんは「全然関係なく『コロナ』という言葉を使っていると。見た人の気持ちに寄り添う作品であればいいと思って選んだ」と話している。

午前11時から午後9時まで。日曜定休。